

目 次

はじめに	v
第1章 認知文法からのアプローチ	1
1.1. 認知文法の言語観	4
1.1.1. ことばの意味の在り処	4
1.1.2. 人間の基本的な認知能力	7
1.1.3. 知覚と認識のメカニズム	12
1.1.4. 知覚作用と認知操作の類似性	14
1.1.5. 認知主体の認知操作の顕在化と言語の意味	16
1.2. 日英語話者の出来事認識の違いと言語表現	20
1.2.1. 日本語話者のモノや出来事の認識の仕方と言語表現	22
1.2.2. 英語話者のモノや出来事の認識の仕方と言語表現	28
1.3. まとめ	33
第2章 空間認識と言語表現	35
2.1. 英語の不定詞と動名詞	37
2.2. 英語の現在完了の本質	52
2.3. 日本語の「た」の意味	56
2.4. 英語の現在時制と過去時制	63
2.5. 日英語話者の能動・受動の感覚の違いと言語表現	70

2.5.1.	英語の受動文の表現効果	71
2.5.2.	日英語話者の出来事認識と能動・受動の感覚	74
2.5.3.	英語の他動性の違いを表す表現手段	79
2.5.4.	日本語の「ラレル」構文	82
2.5.5.	英語の受動文再び	86
第3章	視点と言語化	91
3.1.	日英語における冠詞の発達の有無	92
3.2.	日英語話者の集合の認識の違いと日本語の類別詞の発達	100
3.3.	日英語の二重目的語構文	111
3.3.1.	日本語の二重目的語構文の特徴	113
3.3.2.	英語の二重目的語構文と前置詞文 (SVO to NP)	115
3.3.3.	出来事の捉え方と二重目的語構文	121
3.4.	日本語の助詞「の」と英語の NP's N / the N of NP	124
3.4.1.	日本語の助詞「の」	124
3.4.2.	英語の 's と of	129
3.5.	日本語の「行く」/「来る」と英語の 'go' / 'come'	135
第4章	概念空間と出来事の認知処理と言語化	141
4.1.	日英語の移動表現	142
4.2.	日本語の「V テイル」と英語の進行形 (be V-ing)	148
4.2.1.	日本語の「V テイル」	149
4.2.2.	英語の進行形 (be V-ing)	151
4.2.3.	日本語の「V テイル」と英語の進行形の本質	157
4.3.	英語の存在表現	160

あとがき	171
参考文献	177
索引	185